

4 . 活性化のための4つの戦略

戦略
1

地域産業の力を引き出す農業戦略

農業は、長年にわたり、基幹産業として町の地域経済を支えてきましたが、近年は、米作をめぐる国の政策や、若者の農業離れなどを背景に、農家人口、農家数、経営耕地面積、農業生産額のいずれも減少しており、衰退が懸念されるどころです。栄町にとって農業や農業資源は、経済基盤であるだけでなく、町の魅力そのものであり、住民生活の礎であります。

このようなことから、将来に向けて持続可能な農業生産・農業経営の基盤を確立するとともに、農作物の魅力を高めて付加価値の高い農業への転換を図ります。また、農業・農作物を核として、商業、工業、観光を相互に結びつけることにより、地域産業全体の活力を高めます。地域で生産された新鮮な農作物が地域でおいしく食べられ、それによって地域への愛着が増し、地域経済の活性化にもつながるよう、「地産地消」を推進します。

戦略
2

地域資源を生かし育む文化観光・商工業戦略

栄町には、農業資源（水田・畑）や水資源（利根川、長門川、将監川）、更には歴史・文化資源（古墳、房総のむら、成田道、寺社仏閣）など、多くの魅力あふれる地域資源があります。東京都心から45km圏という立地、高速道路や成田国際空港へのアクセスの良さという利点を生かし、いかに多くの人に、“通過する”ではなく“立ち寄ってもらえる”町にするかが課題となっています。また、他方では栄町の商工業は衰退してきており、観光客等を町なかに引き寄せることのできるような、魅力ある商工業の創出が求められています。

このようなことから、町がもつ地域資源を生かし組み合わせることにより、新しい観光の魅力をつくり出し、観光資源の整備・充実を図ります。そういった栄町の魅力を伝える情報機能を充実させ、内外に向けて積極的に発信することで、観光と連携した商工業の振興を図ります。

戦略
3

町民の暮らしを支える生活支援戦略

今後急速な高齢化が予想される中、高齢になっても、身近で買い物や社会活動ができ、行きたい場所に容易に移動できる公共交通が確保されているなど、「暮らしやすさ」がまちづくりの重要な視点となります。また、町の活気を取り戻すためには、子育てや教育、健康づくり、地域活動など暮らしの様々な面で、生活に魅力を感じられる「暮らしてみたい町」をつくることも必要です。町民の暮らしを支える、人にやさしい社会基盤の充実が求められています。

このようなことから、地域で生活が成り立つ暮らしやすいまちの再生に向け、安全で便利な駅周辺施設の整備、日常の移動手段の確保、一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むための環境整備など、多様な側面から町の生活支援基盤の充実を図ります。

戦略
4

地域のつながりを強化するコミュニティ戦略

今後の地域コミュニティには、介護や子育てなどにおける地域内での助け合い、防犯や環境美化などの生活課題の解決、まつりなどを通じた地域の一体感の醸成など、地域に根ざしたニーズへのきめ細かい対応を行う役割が期待されています。一方で栄町の地域コミュニティを見てみると、地区によりその成り立ちや歴史が異なり、住民意識や活動の活発度にもばらつきがありますが、地域コミュニティの組織化や機能強化への機運は高まってきているといえます。

このようなことから、地域活動の主体である地域コミュニティの自主的な活動を支援するとともに、NPO やボランティア等の活動機会や場を創出し、地域活動への積極的参加を誘導し、地域の絆を強め、地域の自立を図ります。また、更に地域の自主的な生活を充実させるため、生活支援ビジネスの起業環境整備を図ります。